

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新編 地学基礎(数研出版)				
副教材(出版社)	改訂版リト` Light ノート地学基礎(数研出版)、改訂版リト` α 地学基礎(数研出版)				
授業の概要	地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたこと、宇宙と惑星としての地球の特徴、地球環境と人間生活とのかかわりについて学習する。				
授業の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	序編 惑星としての地球 第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震と地殻変動 第4章 火山 第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の形・大きさの測定の仕方や構造などについて、スケールも含めて理解する。</li> <li>プレートの運動について学び、火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることを理解する。</li> <li>地震の性質と地殻変動について理解を深める。</li> <li>火山活動と、その結果として形成される岩石について学ぶ。</li> <li>太陽エネルギーと重力がどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。</li> <li>地球と生命の関係の理解を深める。</li> </ul>		
	2 学期	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動 第4編 地球の環境 第1章 地球環境の科学 第2章 日本の自然環境 第5編 宇宙の構成 第1章 太陽と恒星 探求活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>大気圏の構造と、地球の熱収支について理解する。</li> <li>海洋も大気の運動と同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。</li> <li>時間スケールの大きな現象を考える場合は、全地球的にとらえることが必要であることを理解する。</li> <li>日本の自然環境の特徴と、そこで起こる災害を理解する。</li> <li>太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の進化の過程や時間的なスケールを理解する。</li> </ul>		
	3 学期	第2章 宇宙のすがた	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽系の天体に関して、系統的に学習し、理解を深める。</li> <li>ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。</li> </ul>		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	・身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。	・簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。	・実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行う。 ・実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	・学習内容について理解を深めることができる。 ・観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)				
副教材(出版社)	ニューサポート新編化学基礎 (東京書籍)				
授業の概要	化学が物質を対象とする科学であることを理解し、実験・観察を行うことで、化学が人間生活に果たしている役割について学習する。				
授業の目標	日常生活や社会との関連を図りながら科学への関心を高め、目的意識をもって実験・観察を行い、身のまわりにある化学に興味・関心をもたせるとともに、元素記号や周期表、化学の基本的な法則や概念を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	序編 化学と人間生活  1編 物質の成り立ち 1章 物質の探究 2章 物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質と人間生活の関連、歴史について理解する。</li> <li>生活のいろいろな場面で化学の知識が必要であることを理解する。</li> <li>物質の構成粒子としての原子の構造について理解する。</li> <li>試薬を安全に扱う方法や、基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。</li> <li>周期律と周期表の構成について、族や周期の意味を理解する。</li> </ul>		
	2 学期	3章 物質と化学結合  2編 物質の変化 1章 物質と化学変化 2章 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結合や金属結合、共有結合などの化学結合の仕組みについて理解する。</li> <li>有効数字について理解する。</li> <li>物質の考え方と化学反応式の書き方について理解する。</li> <li>化学反応式の示す量的な関係について理解する。</li> <li>酸と塩基の定義や性質を理解する。</li> <li>中和滴定の実験を通して、指示薬や実験器具の名称と使用法を習得する。</li> </ul>		
	3 学期	3章 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属のイオン化傾向について理解し、いろいろな金属の反応性について考察する。</li> <li>電池のしくみについて理解し、身のまわりの酸化還元反応について化学的に考察する。</li> </ul>		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	・自然の現象について興味と関心を持ち、積極的な態度で授業、実験に取り組むことができる。	・授業内容について科学的な捉え方ができている。 ・授業内容と社会や生活との関連を考えることができる。	・実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行う。 ・実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	・学習内容について理解を深めることができる。 ・基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	理科	科目	理科探究	単位数	2
学年	3年	類型	商業科		
教科書(出版社)	「理科探究」の手引き(愛媛県立松山商業高等学校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	2年次に履修した「生物基礎」分野について、学習活動や実験・実習による探究活動を通して、知識を深化させるとともに科学的な考察力を習得する。				
授業の目標	生物の構造や機能について、基礎的知識を深めるとともに、これらに関連する実験・観察を通して生物や生命活動に親しみをもって接する態度を養う。 問題演習を通して、生物に関する事象を深く考察する能力を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	ガイダンス 1 生物の特徴 2 遺伝子とのはたらき	生物の多様性と共通性について理解を深める。 光合成と呼吸について、酵素のはたらきをふまえて理解する。 エネルギー代謝とATPのはたらきについて理解する。  遺伝子のはたらきとDNAの構造について理解する。 タンパク質合成のしくみとDNAの遺伝情報の関連性について理解を深める。 体細胞分裂を観察し、染色体の行動について理解する。		
	2 学期	3 体内環境とその維持 4 植生の多様性 5 生態系と保全	脊椎動物の体液とのはたらきについて理解する。 腎臓や肝臓のはたらきについて理解を深める。 自律神経系とホルモンのはたらきについて理解する。  植生とその多様性について理解する。 日本と世界のバイオームの特徴について理解する。  生態系の構造と生物のつながりについて理解する。 生態系の物質循環とエネルギーの流れについて理解する。		
	3 学期	「理科探究」のまとめ	人間活動による生態系への影響について考察する。 地球環境の保全について多角的に考える力を身に付ける。  探究活動や問題演習を通して科学的なものの見方ができるようになるとともに、さまざまな事象を深く考察する力を身に付ける。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	自然の現象について興味と関心をもち、積極的な態度で授業、実験に取り組むことができる。	授業内容について科学的な捉え方ができている。 授業内容と社会や生活との関連を考えることができる。	実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行う。 実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	学習内容について理解を深めることができる。 基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価する。また、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				